2019年12月期
第1四半期(1月1日～3月31日)
連結決算の概要

花王株式会社

2019年4月24日

自然と調和する こころ豊かな毎日をめざして

このプレゼンテーション資料はPDF形式で当社ウェブサイトの『投資家情報』に掲載しています。

www.kao.com/jp/corporate/investor-relations/library/presentations/

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- 当社グループは、2019年12月期第1四半期よりIFRS第16号「リース」を適用しています。
- 資料のカッコ()内の数字はマイナス

自然と調和する こころ豊かな毎日をめざして

2019年1-3月の概況と今後の見通し

- 化粧品事業は、日本・アジアとも好調で計画を上回る。営業利益率9.2%。
  グローバル戦略ブランドG11の売上は対前年同期+18%、リージョナル戦略ブランドR8は+9%伸長。
  構造改革と秋のプレステージスキンケアブランド拡充などG11の強化を中心にさらなる成長をめざす。

- スキンケア・ヘアケア事業では、日本でスキンケア「ビオレ」のUVケア新製品が好調にスタート。アジアでもUVケア製品が好調維持。米州では高級ヘアサロン向け「Oribe」が好調も「ビオレ」が引き続き苦戦。4月以降の挽回をめざす。
  ヘアケア製品は日本で新ブランド「and and」の投入、「メリット ピュアン」の改良等でプレミアムラインを強化し成長をめざす。

- 生理用品「ロリエ」は日本・中国で売上伸長が続く。ベビー用紙おむつ「メリーズ」は、中国の新EC法による日本からの転売減少と、転売業者の在庫調整による中国国内の価格低下、越境ECの苦戦が続き、減収減益。
  越境ECは4月以降に回復の見込み。中国でスーパープレミアム品を発売し、メリーズのブランド力強化をはかる。
  日本でも販促強化等でシェア拡大をはかり、通期では挽回し利益率の改善をめざす。

- ファブリック&ホームケア事業は、日本では衣料用洗剤の革新的な新製品「アタック ZERO」の初期配荷と、昨年改良した柔軟仕上剤「フレア フレグランス」が順調。「アタック ZERO」をはじめ新製品・改良品のマーケティング投資を強化し、消費税増税に対応してシェア拡大をめざす。

- ケミカル事業は天然油脂価格の下落により売上は計画を下回るが営業利益は計画通り。高付加価値事業の拡大をはかる。

- 4月以降は、「アタック ZERO」の育成、需要期となるUVケア製品の拡大、中国へのスーパープレミアム品の投入による「メリーズ」強化、10月の消費税増税に向けた取り組みの強化、秋の「SENSAI」「est」などプレステージスキンケアブランドの拡充等により売上・利益を拡大させ、2019年12月期連結業績予想の達成をめざす。

Kao
自然と調和する こころ豊かな毎日をめざして

連結決算のハイライト

市場[※1]　(2019年1-3月)

・国内トイレタリー市場伸長率[※2]: SRI+3ポイント/SCI +5ポイント

・国内化粧品市場伸長率[※3]: 前年を少し上回る

・国内トイレタリー15カテゴリー消費者購入単価[※4]: +2ポイント

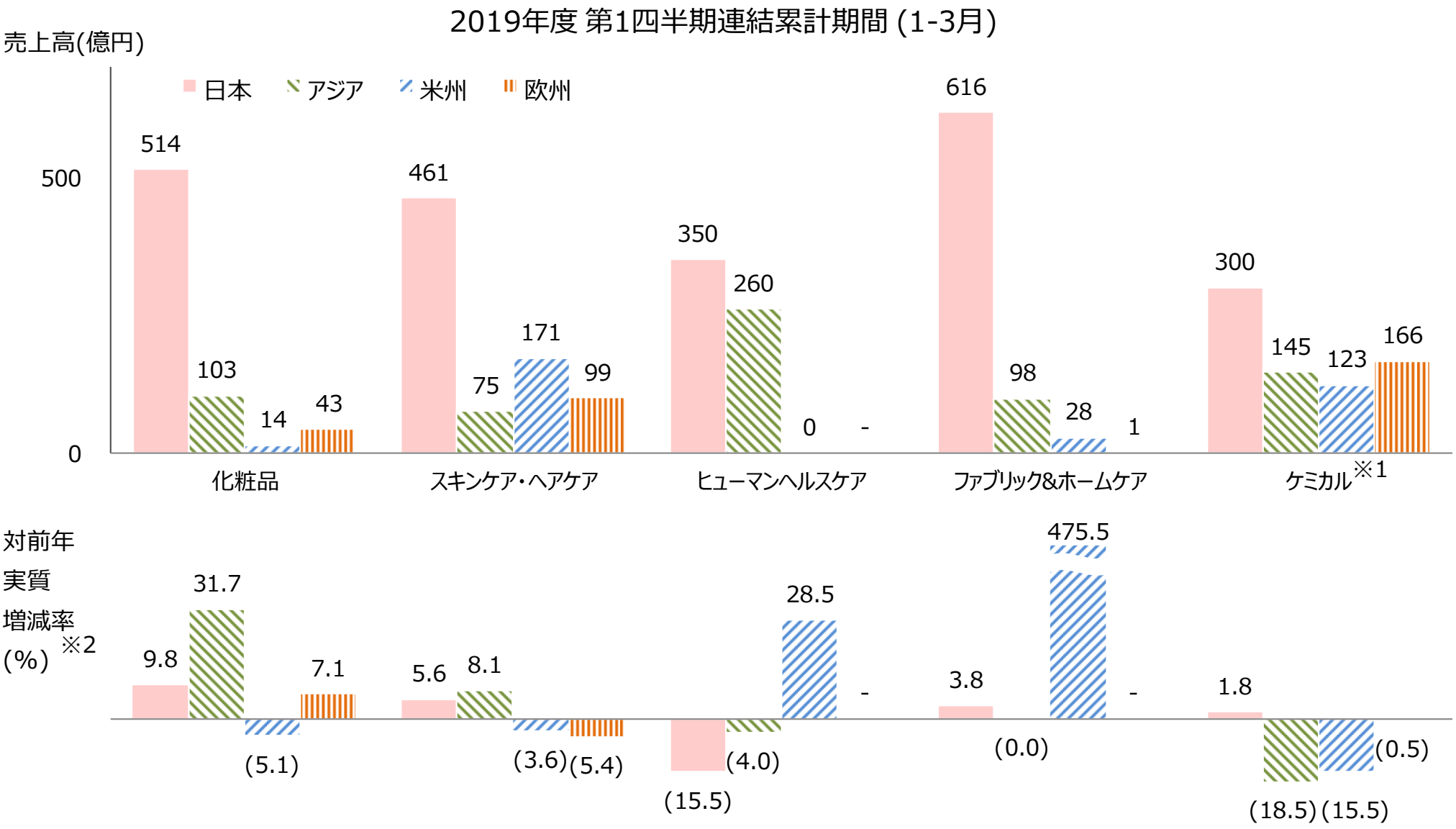
連結経営成績　第1四半期連結累計期間 (1-3月)

【億円】	2018年度	2019年度	前年比%	前年差
売上高	3,506	3,469	(1.1)	(37)
		為替の影響[※5]	(0.9)	(32)
		為替の影響を除く実質	(0.2)	(5)
営業利益	394	382	(3.1)	(12)
営業利益率	11.2%	11.0%	-	-
税引前利益	387	386	(0.2)	(1)
当期利益	282	270	(4.1)	(11)
親会社の所有者に帰属する当期利益	278	264	(4.8)	(13)
EBITDA(営業利益+減価償却費+償却費)	540	541[※6]	+0.1	+1
基本的1株当たり当期利益(円)	56.36	54.33	(3.6)	(2.03)

※1 SRI: 全国約3千店の小売店POSデータによる推計 / SCI: 全国約5万人の消費者モニターによる購入実績データ / SLI: 全国約4万人の女性モニターによる化粧品・スキンケア・ヘアケア製品の購入実績データ [(株)インテージが実施するパネル調査]
※2 化粧品を除くコンシューマープロダクツ / 対前年同期比 [SRI/SCI調べ]
※3 対前年同期比 [SLI調べ] (花王定義にて集計・インバウンド分は調査対象外)
※4 対前年同期比 (2008年1-12月を100とした指数ベース) [SRI調べ]
※5 為替レート: 米ドル=110.09円 / ユーロ=125.10円 / 中国元=16.31円
※6 IFRS第16号「リース」適用による使用権資産の減価償却費を除く

kao
自然と調和する こころ豊かな毎日をめざして

販売実績

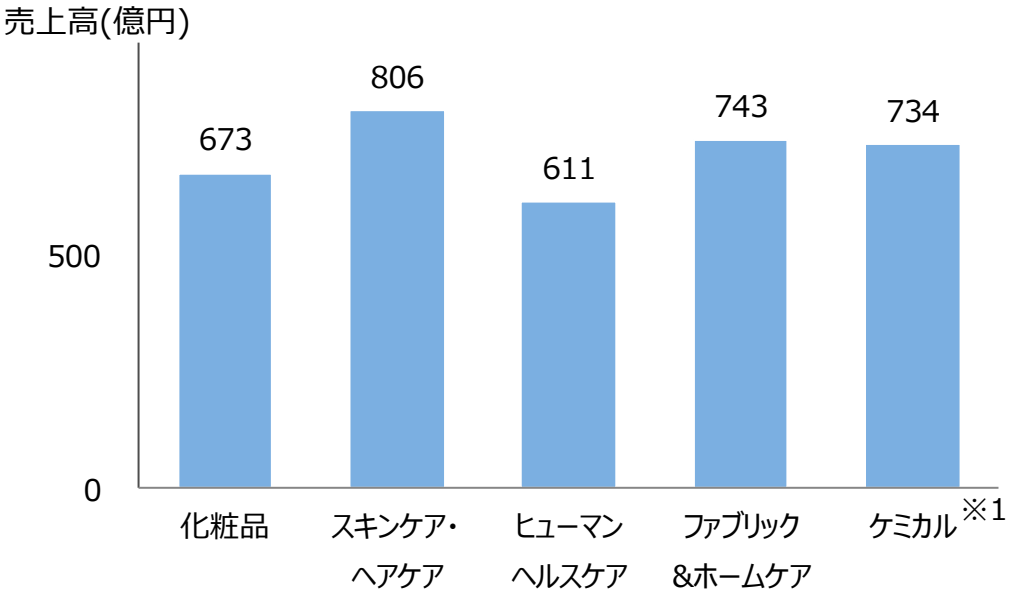


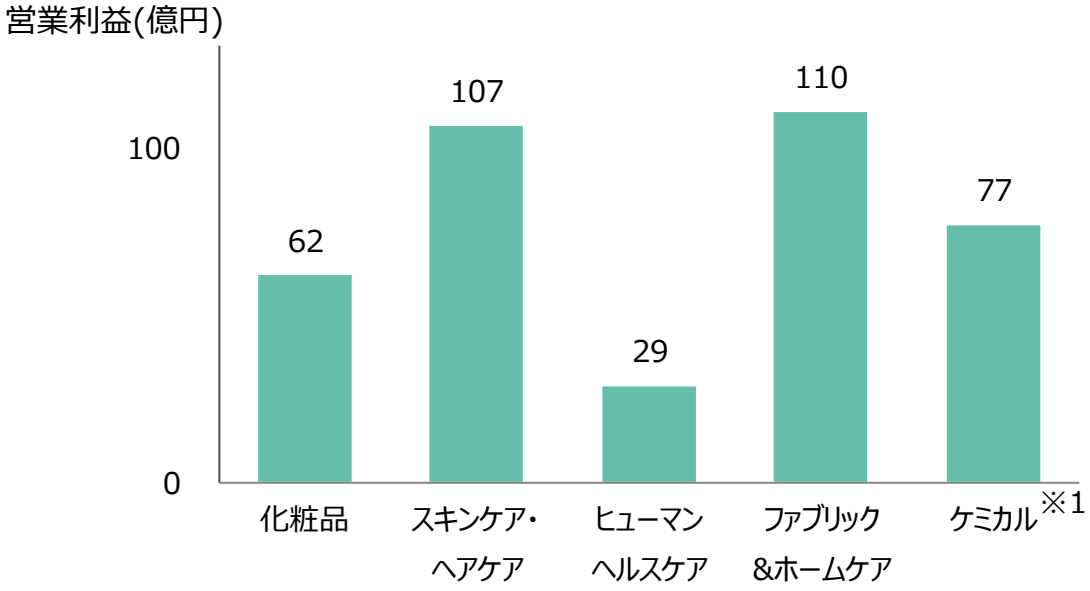
※1 ケミカル事業の売上高はセグメント間取引を含んでいます
※2 為替変動の影響を除く実質増減率

kao
自然と調和する こころ豊かな毎日をめざして

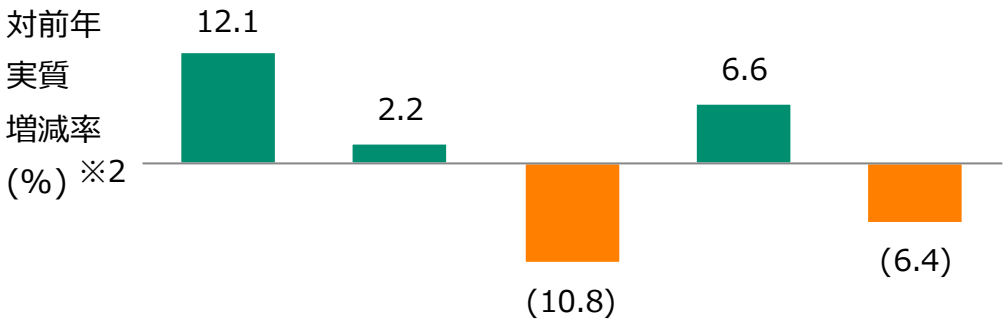
セグメントの業績

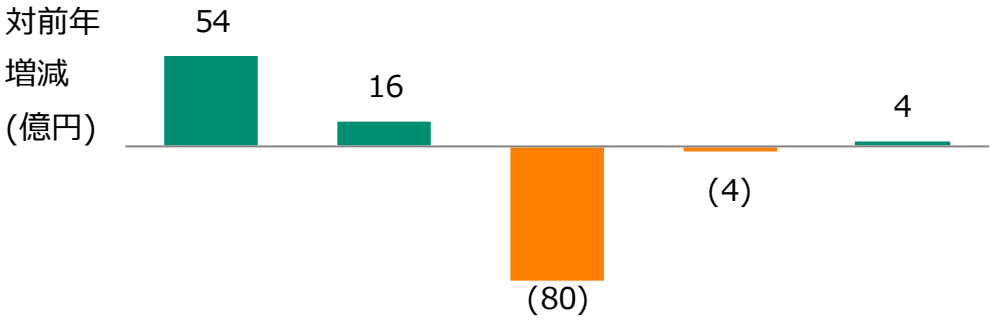
2019年度 第1四半期連結累計期間 (1-3月)





営業利益率(%)	化粧品	スキンケア・ヘアケア	ヒューマンヘルスケア	ファブリック&ホームケア	ケミカル
	9.2	13.2	4.7	14.9	10.5

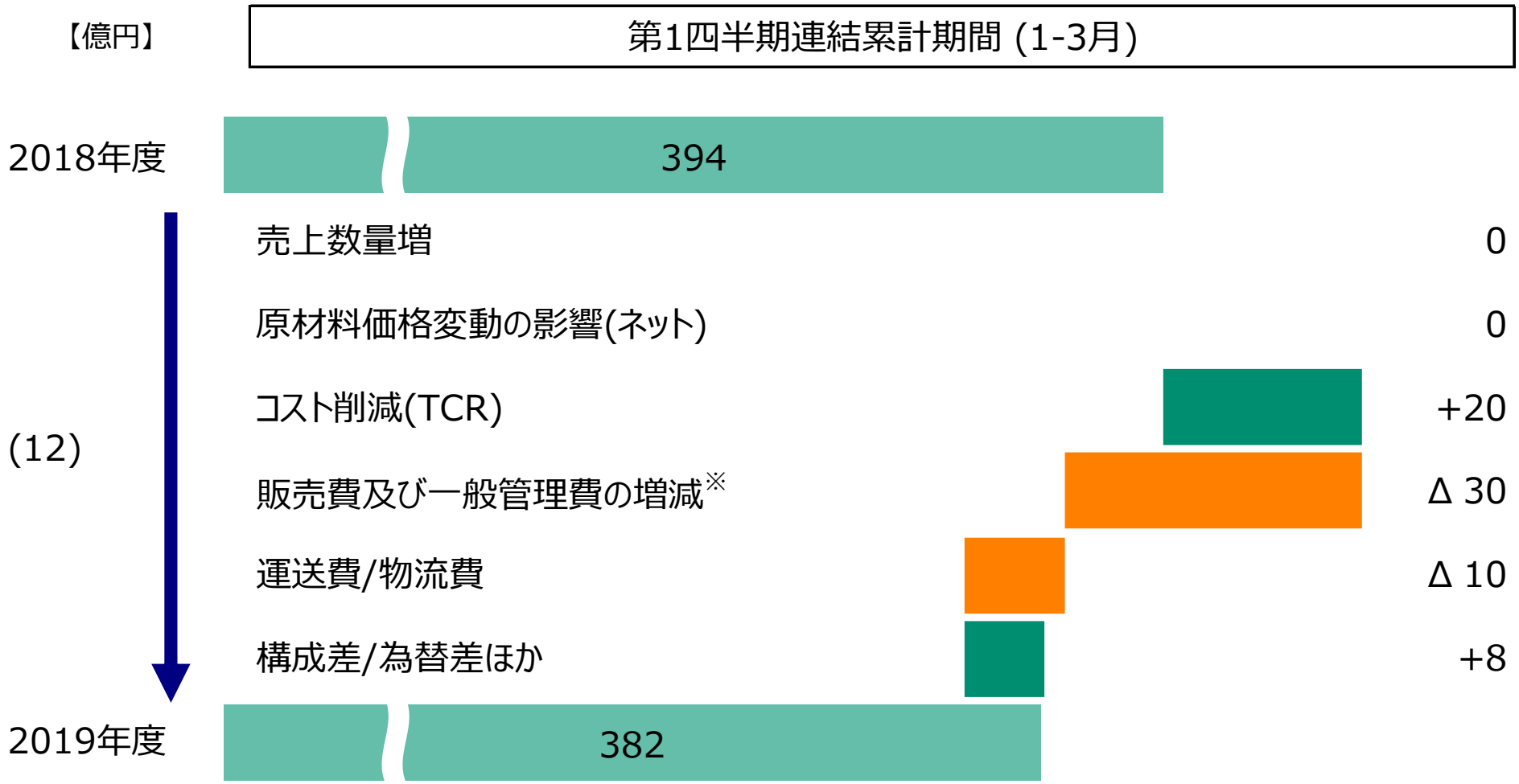




※1 ケミカル事業の売上高・営業利益はセグメント間取引を含んでいます
※2 為替変動の影響を除く実質増減率

kao
自然と調和する こころ豊かな毎日をめざして

連結営業利益増減分析



※ 為替変動の影響を除く実質増減

Kao
自然と調和する こころ豊かな毎日をめざして

IFRS第16号「リース」適用の影響

当社グループは、2019年12月期第1四半期よりIFRS第16号「リース」を適用しています。
従来オペレーティング・リースとして会計処理されていたリース契約について、使用権資産とリース負債を連結財政状態計算書で計上しています。
これによる2019年12月期第1四半期の連結財務諸表への影響は下記の通りです。

期首移行金額

(億円)

連結財政状態計算書			
資産		負債及び資本	
使用権資産	**+1,719**	**リース負債**	**+1,674**
その他	**Δ 64**	**その他**	**Δ 19**
IFRS第16号適用影響 計	+1,655	計	+1,655

第1四半期

連結損益計算書		
売上高	-	
リース料	+53	(減)
減価償却費	Δ 51	(増)
営業利益	**+2**	
金融費用(支払利息)	Δ 4	(増)
税引前利益	**Δ 2**	

連結キャッシュ・フロー計算書	
税引前利益	Δ 2
減価償却費	+51
営業活動によるキャッシュ・フロー	**+49**
投資活動によるキャッシュ・フロー	-
リース負債の返済	Δ 49
財務活動によるキャッシュ・フロー	**Δ 49**
現金及び現金同等物の増減額	-

kao
自然と調和する こころ豊かな毎日をめざして